

浜松地域の経済動向

2021年9月を中心に

部品供給制約の影響などから、製造業は足踏み状態が続いている。

浜松地域の景気は、足踏み状態が続いている。

自動車、二輪車は半導体等部品・部材の調達難、物流の混乱の影響もあり減産となった。

運輸・観光業では、緊急事態宣言により外出を控えた人が多く、

タクシー乗車人員、ホテル宿泊客数は前年同月を下回った。

有効求人倍率は改善がみられるが、倒産件数は前年同月、前月より増加している。

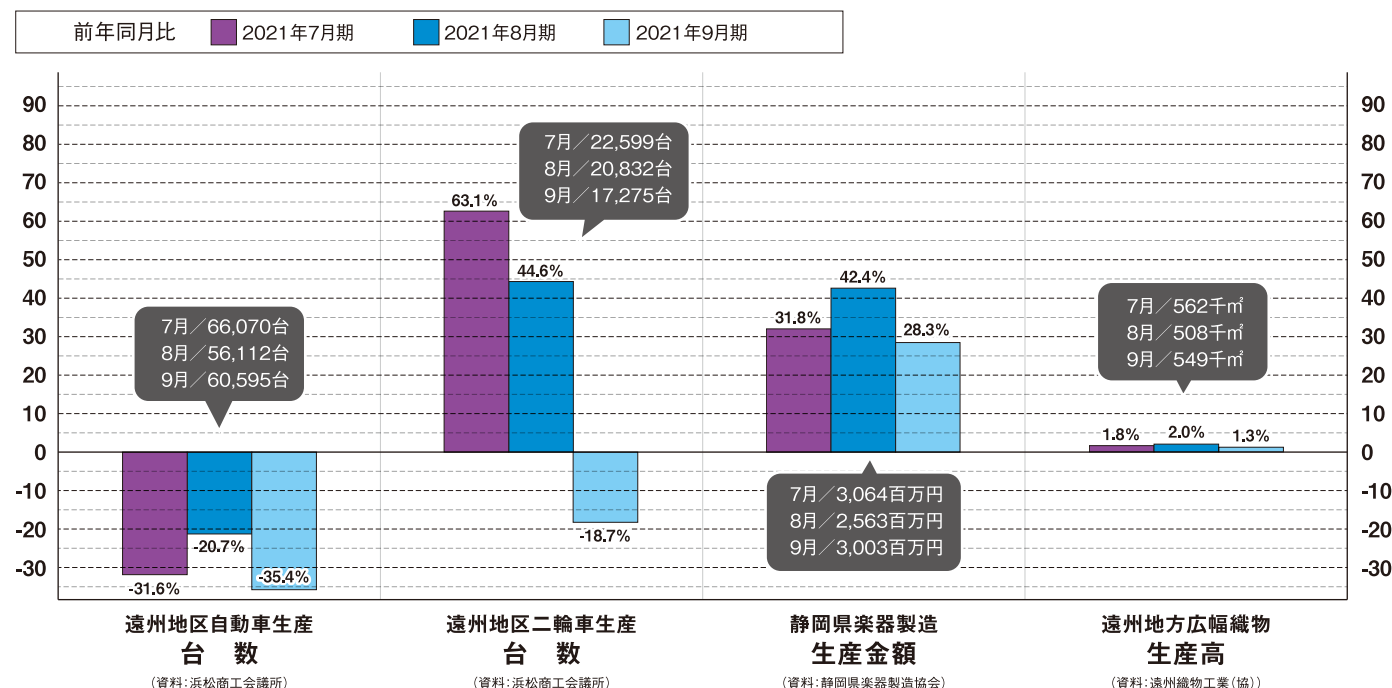
徐々に経済活動は再開してきているが、ガソリン価格の上昇、円安が経済活動にあたる影響が懸念される。

2021.

12月

発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2021年9月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比35.4%減の6.0万台となった。前年同月との比較では、輸出は4.3%増加したが国内向けは44.8%減少した。部品供給不足、半導体の調達難により、軽自動車、小型自動車、普通車すべてで生産が減少した。納期遅れも懸念されている。

二輪車



2021年9月における二輪車生産台数は前年同月比18.7%減の1.7万台となった。国内向けは29.6%増、輸出は24.9%減。排気量別では、50cc以下1.1%減、51cc～125cc以下0.6%増、126cc～250cc以下46.8%減、251cc以上18.7%減であった。輸出は前月まで7カ月連続で前年同月を上回っていたが9月は減少に転じた。半導体や樹脂、部品・部材調達難が影響している。

楽器



2021年9月における生産金額は前年同月比28.3%増の30.0億円となった。ピアノ23.6%増、電子・電気ピアノ19.1%増、電子オルガン80.3%増、管楽器14.7%増となった。6カ月連続で全ての品目で、前年同月を上回った。市況は回復傾向にあるが、半導体不足や物流混乱などで商品供給への影響が懸念される。

繊維



2021年9月の生産高は前年同月比1.3%増の549千㎡となった。3カ月連続で前年同月を上回った。前月からは41千㎡増加した。来春夏向けの受注は振るわず低調に推移しており本格回復には至っていない。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2021年9月におけるタクシー乗車人員は前年同月比31.6%減の17.1万人となった。9月末まで続いた緊急事態宣言の影響で利用客は大幅に減少した。飲食店などでアルコールの提供が制限されたため繁華街の利用者は少なく、ホテル、出張での利用客も減少した。

観光

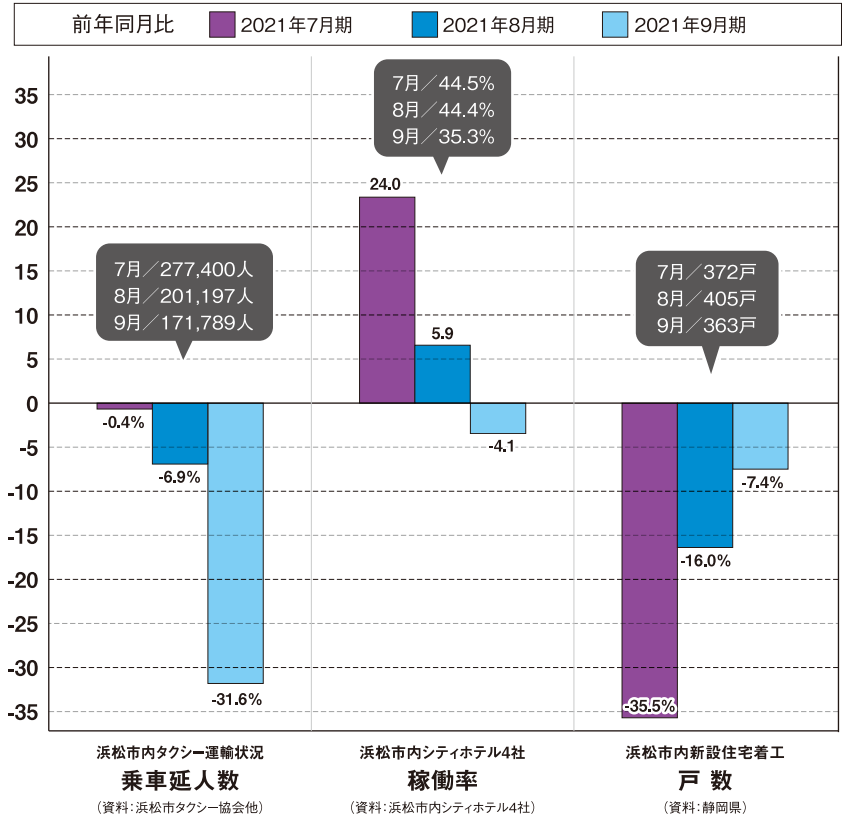


9月の浜松市内ホテルの稼働率は、前年同月より4.1ポイント、前月より9.1ポイント下降した。利用客の中心はビジネスマンで、緊急事態宣言の発令の影響で各種イベントの中止が相次いだこともあり個人、団体での利用客は月を通して低調であった。

住宅着工



2021年9月における浜松市の新設住宅着工戸数は、前年同月比7.4%減の363戸となった。持家は前年同月比27戸増、貸家は59戸減、分譲住宅は6戸減であった。貸家住宅の着工件数の減少が大きかった。前月との比較では42戸下回った。静岡県全体の住宅着工戸数は前年同月を132戸下回る1,641戸であった。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2021年9月の有効求人倍率は1.18倍と3カ月連続で1倍を上回った。前年同月との比較では0.32ポイント上回った。全国(1.16)との比較では0.02ポイント上回り、静岡県(1.21)との比較では0.03ポイント下回った。前月との比較では0.07ポイント上回った。浜松管内の有効求人数は前月より700人増加し雇用情勢の改善はみられるが、静岡県の有効求人倍率を上回るまでには至っていない。

倒産企業



2021年9月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は10件、負債総額は3.9億円となった。倒産企業数は前年同月より7件、負債額は0.3億円増加した。前月からは7件増加した。静岡県全体の倒産件数は18件で前年同月より3件増加した。新型コロナウイルス感染症以外にも、半導体不足やウッドショック、原油高などのマイナス要因があり、今後、幅広い業界で倒産が増えてくる可能性がある。

ガソリン価格



2021年9月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり158.7円となった。前年同月と比較すると22.9円上昇した。コロナ禍からの経済回復による需要増加、円安、産油国の増産見送りなどによりガソリン価格は上昇傾向となっている。

外国為替



2021年9月の外国為替は1ドル110.17円、前年同月と比較すると4.43円、前月との比較では0.33円の円安となった。米国でのインフレ懸念の高まり、原油価格の高騰、米金利上昇などが為替に影響を与えている。円安による輸入物価の上昇が懸念される。

